

新入生の受入れ方針等の策定

令和2年8月12日

宮崎県立農業大学校

令和2年6月19日付けの令和3年度大学入学者選抜実施要項(文部科学省高等教育局長通知)第2に基づく本校の対応は以下のとおりとします。

1 教育方針

校訓「自律・創造・協調」を基調とした教育をとおして、農業県・宮崎における実践農業の教育機関として、将来、本県の農業を担う人材を育成する。

①新入生の受入方針(Admission policy)

宮崎県立農業大学校は、時代の流れを的確に捉え、持続可能な経営と新たな農業に意欲的にチャレンジする経営者を育成するため、柔軟な発想と先見性、専門的な知識や技術、経営管理能力を身につけ、必要な資格を取得した産業人を養成する。

また、グローバルな視点を持って未来を切り拓くとともに、郷土愛を持って地域産業の創生・発展をけん引するリーダーを育成する。

このため、本校では、農業を学ぶために必要な基礎学力を有し、次のような知識や意欲を備えた新入生を求める。

- ・就農や雇用就農により自ら本県農業を支える志を持つ人
- ・地域の食・農業関連産業に従事し、地域産業の振興を志す人
- ・食・農分野での上位大学等への進学や海外農業研修等を志す人

②卒業認定・称号付与の方針(Diploma policy)

宮崎県立農業大学校規則等に基づく所定の単位を修め、次に該当する能力や資質等を備えた者に宮崎県農業士及び専門士(農業専門課程)の称号を付与する。

- ・農業や食・農業関連産業が求める専門的知識や技術、資格を習得している。
- ・実業家としての経営管理能力を習得している。
- ・技術革新や時代の変化に対応できる柔軟な応用力や課題解決力を習得している。
- ・社会人としての基本的な素養と豊かな人間性、表現力を身につけている。

③教育課程の編成方針(Curriculum policy)

宮崎県立農業大学校は、②卒業認定・称号付与の方針に達成するための教育を展開するため、農学科、畜産学科、両学科共通のフードビジネス専攻をおき、次の方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成する。

- ・社会人としての教養及び就職・進学のための「教養科目」を配置する。
- ・農業経営の基本であり専攻コースでの学習の基礎となる知識・資格・経験を学ぶ全専攻共通の「専門共通科目」を配置する。

- ・各学科は、各品目分野における専門知識と技術、経営能力を養うために専攻コースを定め、実践学習と基礎理論の調和のとれた「専攻科目」を配置する。
- ・現場での実践的な課題解決力の向上を図るためにプロジェクト学習を配置する。

2 教育目標

教育方針の実現を図るため、次の4つの視点に基づき学校運営を行う。

①「生産する力（生産技術）」をはぐくむ。

- ・講義、演習、農場実習で「生産する力」の定着を図る。
- ・インターンシップ、自主企画研修等の校外学習で「生産する力」の向上を図る。

②「経営する力（経営スキル）」をはぐくむ。

- ・農業経営科目の講義や農場実習で「経営する力」の定着を図る。
- ・校外学習や『学生出資会社』で「経営する力」の向上を図る。

③「課題を解決する力（課題を見つけ計画的な取組で解決する力）」をはぐくむ。

- ・専攻実習における『プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の定着を図る。
- ・『地域連携型プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の向上を図る。

※高校、農家・農業法人、関係機関等とのコンソーシアム方式による連携・共同プロジェクト学習

④社会性をはぐくむ。

- ・農家・農業法人における研修、企業連携新商品開発、流通・販売学習をとおして、地域社会において積極的に活動し、「ネットワークを構築する力」の定着を図る。
- ・『地域連携型プロジェクト学習』をとおして「社会で活躍する力」の向上を図る。
- ・学生自治会活動や寮生活をとおして「コミュニケーション力」や「協調性」の向上を図る。

3 障害等のある入学志願者への対応

2の教育目標に掲げたとおり本校の教育は、ほ場や畜舎・食品加工施設での実習が柱となっており、障害の程度によっては、本校の教育の目的に即した履修に耐えない場合が予測されます。

このため、障害等のある入学志願者は、必ずオープンキャンパスや事前の学校訪問を行い、本校の保健担当職員によるヒアリングを受けていただきますようお願いします。

このことにかかる問い合わせは、教務学生課に連絡ください。

TEL : 0983-23-0120 Fax : 0983-22-2529 mail:nogyo-daigaku@pref.miyazaki.lg.jp